成人看護学

【成人看護学の考え方】

成人看護学の対象は「大人」である。自立・自律した存在であり、社会的にも役割を多く担って生活をしている。基本的には自分のことは自分ででき、自身の治療や療養方法を自己決定し、また責任をもってセルフマネジメントできる存在である。また成人期は、青年期・壮年期・向老期とライフステージの中で長期にわたる。

成人期の特徴的な疾患は、悪性新生物、心疾患、脳血管障害で、生活習慣病も多い。また青年期や壮年期では自殺も増加している。このことから生活習慣やストレスが成人期の健康に大きな影響が及ぼしているといえ、生活者の視点で捉えていく必要がある。近年、入院患者の在院日数は短縮され、入院中の患者は、健康の危機的状況である場合が多い。また成人期にある対象は、役割を遂行するために、入院せずに外来通院で治療しながら社会生活を送っている人も多い。看護師は、患者の危機的状況や苦痛の緩和への対応、成人に健康を脅かしている生活習慣病やがん、様々な機能障害などをかかえて生活する人への健康教育や患者教育（アンドラゴジー）などの知識や技術が必要である。成人期の患者の看護では、多様な健康状態、生活スタイル、価値観などをふまえて看護アプローチを考えて行うことが必要である。したがって、多様な健康状態・障害に対するアセスメント能力（症状や疾患及び検査・治療に関する理解、健康障害が生活に及ぼす影響の理解、臨床判断力等）、対象とのコミュニケーション能力を学び看護実践能力を養うことが重要である。

〔　目的　〕

成人期にある人々の健康の保持増進・疾病予防、健康障害時の諸問題を総合的に把握し、看護実践をするための基礎的能力を養う。

〔　目標　〕

１．成人の健康障害している症状や疾患、検査、治療に対する理解できる。
２．成人の健康障害が生活に及ぼす影響が理解できる。
３．多様な生活の場で役割をもっている成人の健康を支える看護について理解できる。
４．成人期の特徴、個別性を踏まえて看護過程の展開方法が理解できる。

【構成および計画】

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間		
			1 年	2 年	3 年
成人看護学概論	1	30	1（30）		
呼吸・循環器機能障害患者の看護	1	30		1（30）	
消化・栄養・代謝機能障害患者の看護	1	30		1（30）	
排泄・運動・血液造血機能障害患者の看護	1	30		1（30）	
脳神経機能障害患者の看護	1	30		1（30）	
周手術期看護と事例演習	1	30		1（30）	
合計	6	180	1（30）	5 （150）	

科目名	講　師	小柳麗子	単位数	1
成人看護学概論			時間数	30

科目目的　：　成人期にある対象の特徴を統合的に理解し、健康保持・増進および健康問題にかかわる諸問題を把握し、看護を実践するための基礎を学ぶ。

科目目標　：　1. 成人看護の意義と役割が理解できる。
2. 成人看護の対象者が理解できる。
3. 成人各期に起こりやすい主な疾病の動向と対策が理解できる。
4. 成人への看護アプローチの基本が理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 成人期の特徴	1）成人期にある対象の理解 (1)各発達段階の特徴
2回	2. 成人期にある対象の生活と健康	1）成人期にある対象の特徴 (1)身体的・心理的・社会的特徴と発達課題
3回		(2)成人期にある身体的・心理的・社会的特徴と発達課題＊グループワーク
4回		(3)成人期にある身体的・心理的・社会的特徴と発達課題グループワーク発表
5回	3. 成人期の健康をおびやかす要因と看護	1）健康をおびやかす要因 (1)健康バランスに影響する要因
6回		2）成人各期の加齢に伴う心身の変化と健康問題 (1)加齢現象・慢性化・健康障害の種類
7回		3）成人期の疾病の特徴と生活上の健康阻害要因 (1)人口動向・平均余命・保健行動・世帯構成
8回		4）成人期の疾病構造の特徴 (1)生活習慣病・健康づくり対策
9回	4. 成人期の看護アプローチの基本	1）健康行動をはぐくむ援助 (1)行動変容を促進する看護アプローチ
10回		2）意思決定支援と家族支援
11回		3）健康の保持・増進・疾病予防のアプローチ (1)疾病の予防・早期発見
12～13回	5. 成人期の看護アプローチの実際	1）健康教育の実際　演習　＊グループワーク
14回		2）健康教育の発表・まとめ
評価	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　成人看護学〔1〕成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）	
備考		

科目名 呼吸・循環器機能障害患者の看護	講　師	菅原　隆広 髙橋　あゆみ	単位数	1
			時間数	30

科目目的　：　成人期にある対象の呼吸・循環機能障害の看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。

科目目標　：　1. 呼吸・循環機能障害の症状や疾患、検査、治療に対する理解ができる。
2. 成人の健康障害が生活に及ぼす影響が理解できる。
3. 多様な生活の場で役割を持っている成人の健康を支える看護について理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1～6回	1. 呼吸機能障害をもつ患者の看護	1）呼吸障害の症状、疾患、検査、治療 2）観察とアセスメント (1)胸郭運動・呼吸音・呼吸器症状 (2)換気障害・心身、日常生活への影響 3）主な看護 (1)気管支鏡・造影検査の援助 (2)肺切除後の看護（肺癌）　胸腔鏡下手術 (3)吸入療法・胸腔ドレナージの管理・肺理学療法 (4)慢性閉塞性肺疾患の酸素療法と生活指導
7～8回		4）人工呼吸器装着中の患者の看護
9～14回	2. 循環機能障害をもつ患者の看護	1）循環障害の症状、疾患、検査、治療 2）観察とアセスメント (1)浮腫・うっ血・心電図・身体所見・日常生活への影響 3）主な看護 (1)心臓カテーテル　心血管造影時の援助 (2)経皮的冠動脈形成術の看護（心筋梗塞） (3)ペースメーカー装着・心臓リハビリ (4)服薬指導・血圧コントロールの生活指導

評価	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[2]　呼吸器(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器(医学書院) 系統看護学講座　臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座　臨床外科看護各論（医学書院）
備考	

科目名 消化・栄養・代謝機能障害患者の看護	講　師		単位数	1
			時間数	30

科目目的 ： 成人期にある対象の消化吸収・栄養・代謝・内分泌機能障害の看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。

科目目標 ： 1. 消化吸収・栄養・代謝・内分泌機能障害の症状、疾患、検査、治療に対する理解ができる。
2. 成人の健康障害が生活に及ぼす影響が理解できる。
3. 多様な生活の場で役割を持っている成人の健康を支える看護について理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1～7回	1. 消化吸収機能障害をもつ患者の看護	1)消化吸収機能障害の症状、疾患、検査、治療 (1)咀嚼・嚥下機能障害、消化管機能障害、膵液分泌障害の原因と程度、胆汁分泌障害の原因と程度 (2)消化・嚥下機能障害がもたらす生活への影響 2)症状とその看護 (1)咀嚼・嚥下機能障害、消化器機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害　による症状とその看護 3)検査を受ける患者の看護 上部消化管内視鏡検査・大腸内視鏡検査・内視鏡的逆行性胆管膵臓造影 上部下部消化管造影・直腸診・消化・吸収機能検査 4)治療を受ける患者の看護:喉頭咽頭摘出術 ・食道切除術・胃切除術 胆のう摘出術、肝切除、人工肛門造設術 5)がん患者の看護 (1)手術療法、科学療法、放射線療法、造血幹細胞移植、 (2)心理的状況のアセスメントと援助
8～10	2. 栄養・代謝障害をもつ患者の看護	1)栄養摂取・代謝障害の症状、疾患、検査、治療 2)観察とアセスメント (1)肥満度　摂取消費エネルギー糖・脂質・尿酸代謝 (2)腹部の観察　栄養状態算出　の観察 3)主な看護 (1)インスリン・経口薬指導　自己注射指導　合併症予防 (2)食事・運動・薬物療法　脂質異常症指導
11～14回	3. 内分泌機能障害をもつ患者の看護	1)内分泌機能障害の症状、疾患、検査、治療 2)観察とアセスメント　　ホルモン定量・代謝率　体液不均 3)主な看護 (1)甲状腺 機能障害 甲状腺摘出術　ホルモン療法 生活指導 (2)ホルモンバランス失調 (3)血糖自己測定(SMBG)　(演習)
評価		
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器(医学書院) 系統看護学講座　成人看護学[6]内分泌・代謝(医学書院) 系統看護学講座　臨床外科看護総論　(医学書院)　系統看護学講座　臨床外科看護各論(医学書院)	
備考		

科目名	講　師		単位数	1
排泄・運動・血液造血機能障害患者の看護			時間数	30

科目目的　：　成人期にある対象の排泄・運動・血液造血機能障害の看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。

科目目標　：　1. 排泄・運動・血液造血機能障害の症状や疾患、検査、治療が理解できる。
2. 成人の健康障害が生活に及ぼす影響が理解できる。
3. 多様な生活の場で役割を持っている成人の健康を支える看護について理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1～4回	1. 排泄機能障害をもつ患者の看護	1)慢性期看護 (1)セルフケア・自己管理支援　(2)社会的支援の獲得への援助 2)排泄機能障害の症状、疾患、検査、治療 3)観察とアセスメント (1)排尿・排便パターン　尿排泄障害　体液不均衡 4)主な看護 (1)尿路変更術　膀胱鏡　腎臓移植 (2)慢性腎臓病　透析療法　シャントの管理指導
5～9回	2. 運動機能障害をもつ患者の看護	1)運動障害の症状、疾患、検査、治療 2)観察とアセスメント (1)関節可動域　徒手筋力テスト　機能障害　四肢切断 (2)筋力増強訓練　観血的整復術　人工関節置換 3)主な看護 (1)人工関節置換術　(2)脊髄損傷　(3)骨折　(4)四肢切断　(5)腫瘍
10～14回	3. 血液造血機能障害をもつ患者の看護	1)血液造血御機能障害の症状、疾患、検査、治療 2)観察とアセスメント (1)貧血 (2)易感染 (3)出血傾向 3)主な看護 (1)骨髄穿刺 (2)急性骨髄性白血病　悪性リンパ腫 (3)化学療法　抗がん剤管理 (4)放射線療法　照射法と被爆防御 (5)HIV
評価	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　成人看護学[8]腎・泌尿器　(医学書院) 系統看護学講座　成人看護学[4]血液・造血器(医学書院) 系統看護学講座　成人看護学[11]アレルギー膠原病感染症　(医学書院) 系統看護学講座　成人看護学[10]運動器 (医学書院) 系統看護学講座　臨床外科看護総論　(医学書院) 系統看護学講座　臨床外科看護各論　(医学書院)	
備考		

科目名	講　師		単位数	1
脳神経機能障害患者の看護			時間数	30

科目目的 ： 成人期にある対象の障害レベル・健康段階に応じた看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。

科目目標 ： 1. 脳神経・性・感覚機能障害の症状や疾患、検査、治療が理解できる。
2. 成人の健康障害が生活に及ぼす影響が理解できる。
3. 多様な生活の場で役割を持っている成人の健康を支える看護について理解できる。
4. 終末期にある患者の看護が理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1～7回	1. 脳神経機能障害をもつ患者の看護	1)脳神経障害の症状、疾患、検査、治療 2)観察とアセスメント 生命維持活動調節機能障害・高次脳機能障害・運動、感覚、言語機能障害 3)主な看護 (1)開頭術を受ける患者の看護 術前の看護　主な検査と看護　術後の看護　脳室ドレーンの管理 (2)脳死状態にある人の援助
8～9回	2. 性機能障害もつ患者の看護	1)乳房の手術を受ける患者の看護 (1)手術前の看護　(2)手術後の看護
10～12回	3. 感覚機能障害をもつ患者の看護	1)感覚機能障害の症状、疾患、検査、治療 2)観察とアセスメント (1)視力・視野・味覚・嗅覚・触覚・聴覚 3)主な看護 (1)咽喉頭摘出術　鼓室形成術
13～14回	4. ターミナル期にある患者の看護	1)緩和ケア(疼痛・苦痛) 2)終末期医療の実際
評価	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　成人看護学[7]脳・神経　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　緩和ケア　(医学書院)	
備考		

科目名	講　師	小柳麗子	単位数	1
周手術期看護と事例演習			時間数	30

科目目的 ： 成人期にある対象の特徴を統合的に理解し、看護を実践するための基礎を学ぶ。

科目目標 ：1. 既習の知識を統合し、成人期にある障害をもつ対象の理解とその看護の展開方法が理解できる。
2. 急激な身体侵襲を受ける患者の看護が理解できる。
3. 周手術期の看護の展開ができる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 周手術期にある患者の看護①	1）外科看護・周手術期看護とは 2）手術侵襲と生体反応 3）創部の治癒過程
2回	2. 周手術期にある患者の看護② 3. 術前看護	1）全身麻酔の合併症リスクアセスメント 1）外来における術前看護 2）手術療法の理解・手術意思決定への援助 3）術前指導（抗凝固薬の内服指導、禁煙、呼吸訓練・排痰法指導 足関節の底屈・背屈運動） 4）不安のアセスメントと援助
3回	4. 術中看護	1）手術体位とその影響 2）手術の方法（開腹、開胸、開頭、内視鏡、日帰り手術など）による影響と援助 3）麻酔の方法による影響と援助 4）術中の安全管理、体温管理
4回	5、術後看護	1）早期回復を促進するための援助 ・疼痛の緩和　・感染予防　・弾性ストッキング着用・早期離 2）術後の機能障害と生活制限への援助
5回		1）術前の具体的援助・指導　＊演習 呼吸法・排痰と含嗽法、深部静脈血栓症予防、T字体、腹帯、胸帯
6回		2）術後の具体的な援助・指導 ・術後ベッド作成と観察・創部の洗浄法・早期離床の実際
7～14回	6. 事例展開	事例：急性期疾患(周手術期にある患者) 病態生理・検査・治療・術後合併症 1）情報収集　　2）分析・解釈 3）看護計画立案　4）評価の視点と方法

評価	筆記試験　課題レポート
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器(医学書院) 系統看護学講座　臨床外科看護総論　（医学書院） 系統看護学講座　臨床外科看護各論　（医学書院） 看護過程に沿った対症看護　第5版　Gakken ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーベルヒロカワ）
備考	